

「1 学校で大地震が起こったら」

- 学習のねらい：1. 自分が通っている学校で、どのような危険が起こるかを理解できる。
 2. 校内の場所に応じて、適切な危険回避の方法を理解できる。
 3. 避難時に注意すべきことを理解できる。

(指導上のポイント)

- ◆地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出してすばやく身を寄せ、適切な方法で自分の命を守ることを指導する。
- ◆休み時間等のさまざまな時間帯を想定した危険回避行動についても考えさせる。
- ◆津波による被害が予想される学校や第1次避難場所が危険な場合は、第2次避難場所への避難が必要になる場合があることを指導する。

《参考》

○学校で考えられる危険と回避方法

【教室】 照明器具の落下、割れた窓ガラスの破片の飛散・降りかかり・床への散乱、天井や壁の部材の剥離、本棚・ロッカーの上の荷物の落下、本棚・ロッカーの転倒、掲示板の落下、エアコン・時計・放送機器の落下など

⇒机の下に隠れ、両手で机の脚をしっかり持つ。

【図書室】 本棚の上の方にある図書等の落下、本棚の転倒

⇒すぐに本棚から離れ、テーブルの下にもぐる。テーブルまでたどり着けない場合は、持っている本・雑誌などで頭を守る。

【校舎のそば・運動場】 窓ガラスの破損と破片の落下、外壁材の剥落、運動用具・遊具の損壊、銅像倒壊

⇒サッカーゴールなどの体育器具や校舎から遠ざかり、中央に集まる。

1 学校で大地震が起こったら

(1) 学校の中で危険なこと

これまでに起こった地震で、学校では右の写真のような被害がありました。あなたの学校では、どのような危険があるか考えて書いてください。また、危険の避け方も書きましょう。

場所	考えられる危険	危険の避け方
例) 校庭隣の防球ネット	揺れにより転倒	すぐに離れ、校庭中央へ逃げる
図書室	本棚の転倒	本棚から離れ、机下に隠れる。
階段	階段からの転落	手すりに掴まりしゃがむ。
音楽室	ピアノの横すべり	ピアノから離れる。
体育館	照明設備の落下	中心に集まり、身を守る。
理科室	薬品棚の転倒	薬品棚から離れる。
家庭科室	ガス漏れによる引火	出火現場から離れる。

【ヒント】危険の原因が内部(学校の損壊など)か外部(津波や火災)か、あるいは、危険の種類が転倒(書棚・下駄箱など)か落下(天井材・照明器具など)か火災(調理室や理科室など)かなど、タイプによって分けると考えやすくなります。

話し合ってみよう!

あなたの学校では、どのような対策が必要か話し合ってみましょう。



(議論のポイント)

- ・ 県立学校の耐震化率は100%・非構造部材(外壁、天井等)20%弱(H27年4月時点)、教室・廊下・体育館の天井や照明、校内の本棚・ロッカー等の具体的な危険箇所を把握。など

(次年度以降の展開例)

- ・ 学校の見取り図を用意し、自分がいる学校で、どのような危険が発生し、どのように危険を回避するかを考えさせる。などが考えられる。

(2) 避難するときに気をつけること

①あなたの学校では、どのような経路で、どこへ避難することになっていますか。

例) 西階段を下り、昇降口から運動場へ避難する。

②避難する経路には、どのような危険があると考えられますか。
また、どんなことに気をつけたいですか。

- ・割れた窓ガラスの破片を踏むことによるけが。
- ・「お・は・し・も」を守る。

●避難場所まで何分かかりますか。(5 分)

※津波が来る恐れのある場合、まず揺れから身を守り、その後、すぐ高いところへ避難するという、二段構えの対応をしましょう。

(3) 避難訓練でわかったこと

①避難訓練の結果、避難計画と違った点や(2)であなたが想定していた点と違ったことがあったら書いてください。また、覚えておくべき点を書いてください。

- (違った点) 運動場までたどり着くの時間に時間を要した。など
- (覚えておくべき点)
- ・実際の地震では窓ガラスが割れるなど被害が予想される。など

② 上記①を踏まえて、改善すべき点があれば書いてください。

生徒同士で避難訓練を企画する。窓ガラス飛散防止フィルムを貼るお金を学校に要望する。避難指示標識を立てる。など

もしも誰かが突然に倒れたら…

心肺蘇生法

呼吸が止まり、心臓も動いていないとみられる人に対して、胸骨圧迫を行う初期の救命方法です。二次災害を防ぐために周囲の安全を確認してから実施します。



AED

心室細動(心臓の筋肉が不規則にブルブルと震え、全身に血液を送り出すポンプの役割を果たせない状態に陥る症状)を起こした人に取り付け、電気ショックを与えて心臓の動きを取り戻すための救命機器です。



最初に体が濡れている場合は拭き取る。手袋はAEDの音声ガイドンスに従えばいいので、着き替えて行う。

(指導上のポイント)

- ◆まずは周囲の大人に知らせることや、119番通報することを指導する。
- ◆AEDのある場所を知っておくことで大切な人の命を救えることを指導する。

《参考》学校で考えられる危険と回避方法

【廊下】 掲示板の落下、防火扉の損壊

⇒頭をカバンや本、手で守る。照明、窓ガラス、ドアからなるべく離れる。

【階段】 階段からの転落

⇒階段では手すりにつかまり、揺れがおさまったら安全を確認しながら降りる。

【昇降口】 下駄箱の転倒

⇒下駄箱から離れる。あわてて外に出ない。

【音楽室】 ピアノの横滑り、楽器の転倒

⇒ピアノ、戸棚などから離れる。

【家庭科室】 食器棚の転倒、包丁・食器などの落下と破損・破片の飛散、ガス漏れ

⇒包丁や皿などが落ちてくることを考え、頭を守る。

(指導上のポイント)

◆地震はいつ、どこで起こるか分からないので、自分たちの教室以外の場所での避難ルートについても考えさせる。

◆「お・は・し・も」を指導する。

◆「はしらない」は、廊下、階段でのけがを防ぐためのものであり(校舎内)、外へ避難したら走る場合もある。

◆「津波が来そうなら、急いで高い場所へ避難する」とあるが、各市町に津波からの避難先を確認するなど、地域の実態に合わせて指導する。

◆津波が来る恐れがある学校では、どの程度時間の余裕があるかを確認する。

◆よい天候や昼真の時間だけでなく、例えば雨の日や夜間に避難する場合はどうすればいいかを考えさせる。

(指導上のポイント)

- ◆避難訓練を実際に行うことで、想定どおりにいかないことを気づかせる。また、いざという時に確実に身を守れるよう真剣に取り組ませる。
- ◆災害時に直面するさまざまな課題に対して、大人の指示を待つのではなく、生徒自らが解決していくことが重要であることを指導する。

(確認)

学校における危険に対して、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。